

科目名	心理と人間行動			ナンバリング	RLA113	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	末次晃	担当教員					

授業の概要	「心理と人間行動」メジャーでは何をどのように学修するのか、この分野の概要を理解することが目標である。この講義の中心となる心理学は、科学的なアプローチによってこころのはたらきや構造を研究している。こころにはさまざまなはたらきがあり、研究されているテーマは非常に幅が広く、内容も多彩であるが、それらに共通する基礎的な知見がある。この講義では、基礎的なはたらきである知覚や記憶、学習などを中心に取り上げ、それぞれについて基礎的な事柄を身につけることで、心理と人間行動メジャーの他の科目を理解できる基礎力を養うことを目標とする。						
到達目標	1. 「心理と人間行動」メジャーで学ぶおもなテーマを理解する。 2. 「心理と人間行動」メジャーにおける研究方法の概要について、主な方法を上げて説明できる。 3. 講義で紹介したそれぞれのテーマについて、代表的な研究例を挙げながら内容を簡潔に説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	各回でテーマが異なるため、そのテーマは心理学のどの分野の研究であり、他の分野との関連性はどうか(心理学研究の大枠)を事前に調べておくことが望ましい。それを念頭に置きながら受講することで、心理学の枠組みがよりよく理解できるようになるとともに、今後受講する授業間の関連性も理解できる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 心理と人間行動メジャーではどのようなことを学ぶのか、研究テーマを挙げることができる。 2. 「見えない」心をどのような方法で研究しているのか、研究方法を列挙することができる。 3. 各回のキーワードを挙げることができる。	1. 心理と人間行動メジャーではどのようなことを学ぶのか、具体的な研究テーマを挙げながら説明することができる。 2. 「見えない」心をどのような方法で研究しているのか、研究方法を具体的に挙げながら説明することができる。 3. 各回のキーワードについて研究例を挙げながら説明することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○			○		80%
小テスト・授業内レポート		○			○		20%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
出席							欠席は減点対象となる ことがある。

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	本講義の概要説明	「心理と人間行動」メジャー科目群の中での、今後授業で紹介するそれぞれのテーマ位置づけ、心理学の研究領域にはどのようなものがあるか、それらの間の関係を概説する。	
	第2回	心理と人間行動の研究法	心理と人間行動をどのように研究しているのか、主な研究方法（観察、調査、実験など）それぞれについて、具体例を挙げて説明する。（観察、フィールド実験、質問紙調査、実験）	
	第3回	外界を知る－知覚	知覚における諸現象－感覚遮断、感覚受容器、閾値、順応等－について、体験を交えながら具体例を挙げて説明する。（閾値、順応）	
	第4回	錯視の世界	さまざまな錯覚・錯視の体験を通して、私たちの体験している世界が物理的な世界とは異なることを説明する。（錯視）	
	第5回	注意のはたらき	古典的な注意研究である「選択的注意」を中心に、具体的な実験を挙げながら注意のはたらきを概説する。（カクテルパーティ効果）	
	第6回	行動と学習	学習心理学の基本である2つの条件づけについて、それぞれの手続きと特徴とを説明する。また、条件付けを日常生活のさまざまな場面に適用した応用例も紹介する。（バプロフ）	
	第7回	モチベーション（動機づけ）	外発的動機づけ、内発的動機づけなどモチベーションに関連する諸概念を列挙し、それぞれについて説明する。（内発的動機づけ）	
	第8回	記憶	感覚記憶、ワーキングメモリ、宣言的記憶、手続き的記憶、意味記憶、エピソード記憶について、それぞれの特徴を解説する。（目撃証言）	
	第9回	知識	実験例を挙げながら、カテゴリー、知識構造、スキーマのはたらきと構造について説明する。（プライミング効果）	
	第10回	考えること－思考・推論・意思決定－	推論のバイアス、創造的思考や意思決定等について、それぞれの特徴について具体例を挙げて説明する。（認知バイアス）	
	第11回	感情	「感情」の分類や機能および認知機能への影響について、具体例を挙げながら説明する。（ジェームズ・ランゲ説）	
	第12回	社会的認知	印象形成、対人認知、帰属のバイアス、ステレオタイプ、社会的推論など社会的認知の基本的なトピックについて説明する。（メラビアンの法則）	
	第13回	認知発達	認知発達、とくに乳幼児期の特徴について基本的な事柄を説明する。	
	第14回	ストレス	ストレスについて基本的なことを学修する。	
	第15回	まとめ	2回～14回分の内容の要点を整理する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		講義形式および質疑応答が基本である。小テストを課すことがあるが、その場合、事前にアナウンスする。		
授業外学習の指示		シラバスを参照しながら、次回の内容について簡単に調べ、整理しておく(30分)。とくに内容で括弧でくられた単語について調べておく。また、授業後、事前のメモとプリント、ノートを相互に参照しながら、授業内容をまとめる(60分)。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	使用しない。プリントを配付する。
参考書	適宜、紹介する。
参考URLなど	とくになし。
その他	追加資料の配付などで、manab@IMUを使用することがある。